

まちづくり 来 ぶらり

第66号

特集「日本福音ルーテル復活教会」

「文化のみち」徳川園エリア（東区徳川町）に、赤い屋根が印象的な教会があります。ヴォーリズ建築事務所による日本福音ルーテル復活教会です。

ヴォーリズ（ウィリアム・メレル・ヴォーリズ）は、1880（明治13）年アメリカ・カンザス州生まれ。1905（明治38）年に滋賀県立商業学校（現在の八幡商業高等学校）の英語教師として来日しました。



教職中YMCA会館の建設に携わったことを発端に、京都で建築設計事務所を開業、その後、近江八幡を拠点に、教会、学校、百貨店、個人邸宅など戦前だけで1500件あまりを手がけました。ヴォーリズは建築を「キリスト教精神の表現」と捉え、その設計は、個性を表現するものではなく、依頼者と技師たちの協力によって、日本の気候風土や習慣に合わせる工夫、使う人の身になって設計する奉仕の精神が表われたものでした。

建築家ヴォーリズは彼の一面に過ぎません。メンソレータムの輸入を行う近江セールズ株式会社（近江兄弟社）の設立、結核患者を救うための近江療養院（近江サナトリウム）の開院のほか、教育、出版、図書館の運営など多岐にわたって近江八幡のまちづくりに貢献した人物でもありました。

ヴォーリズの建築は、近江八幡を中心に大丸百貨店（大阪）や山の上ホテル（東京）など全国に残されていますが、日本福音ルーテル復活教会は、名古屋では数少ないヴォーリズ建築として貴重です。戦後まもない1953（昭和28）年、建築事情の厳しい時代が反映された小さな建物ですが、ヴォーリズの温かい人柄が伝わってくるようです。2012（平成24）年4月には、国の登録有形文化財に指定されました。

- ◆関連資料 ※（ ）内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
 『徳川園近くのヴォーリズ建築／日本福音ルーテル復活教会』瀬口哲夫／著（雑誌：愛知の建築612号P10）
 『ヴォーリズ評伝』奥村直彦／著、港の人（la-オ）
 『ヴォーリズ建築の100年』山形政昭／監、創元社（ld-ヤ）
 『ヴォーリズの住宅』山形政昭／著、住まいの図書館出版局（la-ヤ）

まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料、建築・交通・環境などの図書、研究機関・シンクタンクなどの調査研究報告書などを収集しています。

「懐かしいまちなみ」の写真をご提供ください

名古屋のまちの姿をいつまでも語り継ぎ、まちづくりの基礎資料とするため、名古屋市内で撮影された「懐かしいまちなみ」の写真を収集しています。

明治期から昭和30年代に撮影された写真がありましたら、ぜひご提供ください。



- ・ご提供いただきました写真は、電子データとして保存し、パネル印刷物等に利用させていただくことがあります。
- ・ご提供いただける場合は、お電話にてご連絡ください。まちづくりライブラリー TEL:052-678-2212

お気に入りの一冊 「さくら道」

「この地球の上に、天の川のような美しい花の星座をつくりたい。花を見る心がひとつになって、人々が仲良く暮らせるように」

本書は不治の病を得ながらも「太平洋と日本海を桜で結ぶ」という夢を実現しようと、名古屋市から金沢市までを結ぶ名金急行線（現在は廃止）の路線沿いに約2000本の桜を植え続けた、旧国鉄バスの車掌であった故佐藤良二氏の手記をもとに取材した中村儀朋氏の記録小説である。

多くの日本人が愛する桜を通して、それを見たあまねく人々の幸福を自らの喜びと課し、様々な葛藤や軋轢のなか、ひたむきに桜を植え続けた佐藤氏の活動は故人となったあとも家族や同僚に引き継がれ、そして氏の思いに共感した見知らぬ人々につながり拡がっていく。ただ「桜」のみを優先する氏の生のあり方には是非もあろうが、その生き様は尊く、そこには、まちづくりへの原点があるように思われてならない。（K）

編著者：中村儀朋
 出版社：風媒社
 請求記号：Tb-ナ

